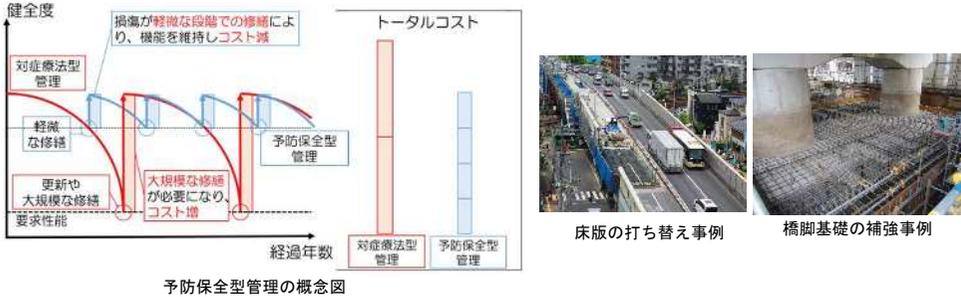


橋梁予防保全計画の概要

1. 橋梁予防保全計画とは

平成21年に「橋梁の管理に関する中長期計画」を策定し、予防保全型管理への転換を進めてきたが、最新の点検結果やこれまでの取組みを踏まえ、より一層予防保全型管理を推進するため「橋梁予防保全計画」を策定



目的: 損傷や劣化が進行する前に適切な対策を行う予防保全型管理をより一層推進することで、更新時期の平準化と総事業費の縮減を図ると共に、都民の安全・安心を確保し、次世代に良質なインフラを引き継ぐ「持続可能な橋梁の維持管理」を実現する。

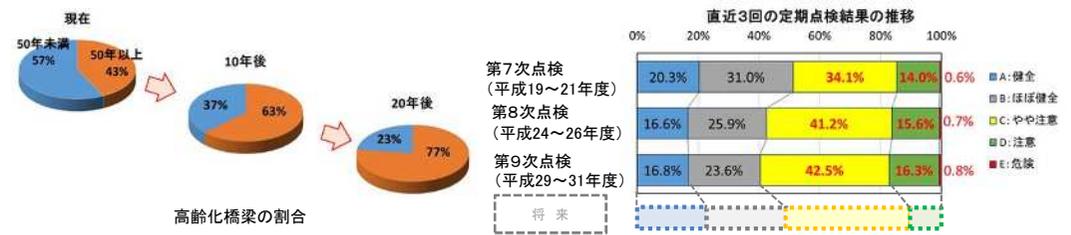
2. 管理橋梁の現状と課題

(1) 橋梁の高齢化

供用年数が50年を超える橋梁(以下、「高齢化橋梁」)の割合は2020年(令和2年)4月時点では43%だが、10年後には半数を超え、20年後には8割近くが高齢化橋梁となり、今後急速に増加する。

(2) 点検結果の推移

第9次点検においては『ランクC: やや注意』『ランクD: 注意』と判定された橋梁の増加率は鈍ったものの全体の約6割と高い水準となっており、今後も維持・補修費の増加が懸念される。



3. 本計画のポイント

◆ 事業計画

予防保全型管理の推進を実現する事業計画としてこれまで実施してきた「長寿命化事業」を継続するとともに、新たに「定期点検に基づく補修事業」を策定

① 長寿命化事業

- ・ 重要度等の高い橋梁 (212橋) を対象
- ・ 建設時より性能を向上させて、対策後、適切に管理して100年以上使い続けることを目指す

継続
10年間 (R3~12年度) で
59橋に着手 (累計180橋着手)

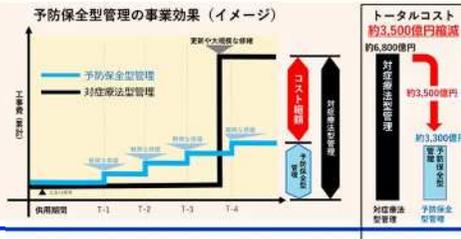
② 定期点検に基づく補修事業

- ・ ①に含まれない橋梁のうち、最新の定期点検結果から補修等の措置が必要な橋梁を対象
- ・ 進行が早い損傷は軽微なうちに対策を講じる
- ・ 建設時と同等の性能を維持

策定
今回の定期点検 (R6年度)
までに96橋で措置

◆ 事業費縮減効果

従来の対症療法型管理 (架替え) と予防保全型管理の事業費を試算
⇒2038年 (令和20年) までに約5割 (約3,500億円) のコストを縮減



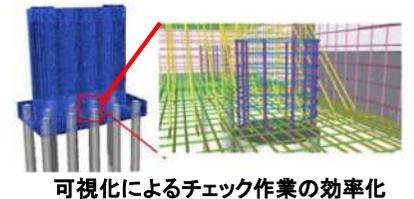
4. 今後の取組

(1) 計画のローリング

点検結果や社会情勢の変化等に基づく計画の見直し
維持管理において「PDCAサイクル」に基づく継続的な取り組みが重要

(2) 新技術の導入による点検

- ・ 調査・設計・工事の効率化・高度化
- ・ 点検・健全度診断における効率化・高度化



新材料(高性能鋼材)を用いた対策事例